

麻につるる



ラミー（苧麻）畑 Photo by TOSCO

日本麻紡績協会

ASABO / Japan Linen, Ramie & Jute Spinners' Association

日本麻紡績協会 会長就任のご挨拶

日本麻紡績協会
会長 根本 圭司

日本麻紡績協会 会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は当協会の運営に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、脱炭素、SDGs への対応は企業が持続的に発展していくために必須のテーマであります。我々が扱う靱皮繊維である麻（ラミー、リネン、ヘンプ）は、「土に生まれ、土に還る」素材であり地球環境と調和しつつ、古より日本^{いにしえ}で、そして世界で広く用いられてまいりました。

また、その特異な繊維特性を持つ麻は、他素材との複合等によって季節性や用途においてもさらに拡がりをみせています。

只、その一方で、麻の原材料価格は、ラミー・リネンともに史上最高値水準にあり、市場ニーズの高まりにも拘わらず売価転嫁もままならず市場拡大の制約要因となっております。

日本の繊維・ファッション業界も低価格思考から脱却の時を迎えようとしている今日、我々は培ってきた麻の知識を結集し、さらなる付加価値の創造に協働すべきではないかと思っています。

かかる状況下、私自身も微力ではございますが、今後とも当協会の発展のため、鋭意努力してまいる所存でございますので、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



麻につつま

日本麻紡績協会 会長就任のご挨拶

目次	・ ・ ・	1
----	-------	---

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

経済産業省製造産業局生活製品課長	・ ・ ・	2
------------------	-------	---

・ 業界レポート	2024 年リネン（亜麻）事情	・ ・ ・	4
	2024 年ラミー（苧麻）事情	・ ・ ・	5
	亜麻・苧麻統計表	・ ・ ・	6
・ 会員企業紹介	有限会社小啓修整織物	・ ・ ・	7
	リネンハウス株式会社	・ ・ ・	8
	株式会社トーホーユニ	・ ・ ・	9
・ 近況報告	今村株式会社	・ ・ ・	10
	有限会社シービープランニング	・ ・ ・	11
	ミマス株式会社	・ ・ ・	13
	有限会社リネット	・ ・ ・	14
・ 中国麻国際会議出席レポート		・ ・ ・	17
・ PREMIERE VISION 2025SS (2/6-2/8)		・ ・ ・	19
・ お知らせ		・ ・ ・	21
・ 日本麻紡績協会の現況		・ ・ ・	22
・ 会員企業一覧		・ ・ ・	23
・ JIHA（日本ヘンプ協会）様のお知らせ		・ ・ ・	24

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

経済産業省製造産業局生活製品課長
田上 博道様

本年は年始より、能登半島地震や羽田空港での航空機衝突事故などが発生しました。

1月1日に発生した令和6年能登半島地震において亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。経済産業省としましても、人命第一の原則のもと、①電気・ガス等のライフラインの早期復旧、②ストーブ等の暖房器具や灯油などの必要物資の支援、③被害状況や復旧状況等に関する適切な情報発信等に緊張感をもって取り組んでまいります。

改めまして、本日、日本麻紡績協会・年賀交歓会が盛大に開催されましたこと、お慶び申し上げます。

日本経済は、長年続いたデフレ構造から新しい経済ステージへと移っていく、千載一遇のチャンスです。

昨年は、賃上げや設備投資がともに30年ぶりの高い水準となるなど、「潮目の変化」が生じました。

今年こそ、変化の兆しを逃すことなく、「コストカット型経済」から「投資も賃金も物価も伸びる成長型経済」への転換を必ず実現しなければなりません。

○経済対策

政府は、昨年末17兆円規模の経済対策を決定し、予算・税制・規制のあらゆる面で施策を打ち出しました。

大規模・長期・計画的に取り組む「経済産業政策の新機軸」を、強力に推し進めていきます。

○国内投資

GX分野においては、成長志向型カーボンプライシングや国内投資促進税制、GX経済移行債による各種投資促進策などを措置しました。

DX・経済安全保障等では、先端半導体拠点確保や生成AIの基盤強化などに取り組みます。

年末には、200強の施策からなる「国内投資促進パッケージ」をとりまとめ国内投資を強力に後押しします。

皆様には、これらの施策を存分に活用していただき、大胆な投資を進めていただくようお願いします。

○省力化投資支援

構造的な人手不足を乗り越え、売上を拡大するためには省力化投資も重要です。

カタログから選ぶような簡易で即効性ある中小企業向け支援を5,000億円規模で措置します。

業界内へのカタログ掲載の案内、利用に向けた周知などご協力をお願いします。

○持続的な賃上げを実現する環境整備

高い賃上げへのインセンティブ強化や子育てとの両立や女性活躍等、雇用の「質」の向上への支援も盛り込んだ賃上げ促進税制を強化していきます。

また、中堅・中小企業の省力化投資支援による賃上げ原資の確保や、成長分野への労働移動の円滑化に向けたリスクリング支援などに取り組んでいきます。

皆様には、働いている方々のモチベーションを高め、優秀な人材を確保するために、こうした支援策を使って、是非、賃上げを行っていただきますようお願いします。

○万博

2025年4月に開催される大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマになっております。

SDGsの達成に向けた取り組みを加速化させる機会になるとともに、新たな技術、サービスやシステムの社会実装に向けたチャレンジ、イノベーションの実証の場となるよう、開幕に向けて順調に準備が進められております。

是非、経済界の皆さまにもこの万博に積極的にご来訪いただき、関西圏のみならず、日本の経済社会全体の活力向上となる大きな機会に参画していただければ幸いです。

○労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針

労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する支援が昨年12月に公表。公取・中企庁の調査において特に労務費の価格転嫁が進んでいない結果であったため、発注者・受注者としてとるべき行動・求められる行動が指針として公表されました。是非ご確認ください。

また、下請け取引のパートナーシップ構築宣言も引き続きお願いします。

○麻紡績業界について

麻素材はサステナブルな素材として近年、特に海外で注目されていますが、昨年秋の臨時国会で大麻取締法が改正され、麻の産業利用が今後広がっていくと思われます。こうした機会をしっかりとつかんで、麻製品の普及に取り組んでいただくようお願いします。

しかし、繊維業界は、人手不足が深刻な状況です。まずは労働環境の適正化を図っていただくとともに、魅力ある職場づくりもお願いします。日本のものづくりは世界から高く評価されております。世界の繊維アパレル市場をもターゲットに、大きな課題となっている人権・環境への配慮など着実に対応を進めていただき、適正な価格での取引が行われるよう経産省としても取り組んでまいります。

最後に、日本麻紡績協会のご発展とご列席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本日はお招きいただき、誠にありがとうございました。



業界レポート

2023 年～ 2024 年リネン（亜麻）事情

ヨーロッパにおけるフラックスライン生産状況推移

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
作付面積 (Ha)	139,610	170,000	120,000	144,700	150,000	160,000 (予想)
原料生産数量 (t)	182,456	150,000	147,000	152,000	80,000	未定

2023年度のフラックス生産は、作付け面積は拡大したものの、天候不順(3月および6～7月)により、収穫量は激減した。その結果、値上げや原料不足など近年にない深刻な問題を抱えている。特に需要の大きい衣料用中番手、40L、60L は大幅に不足している。各アパレルは価格問題からリネン 100% 商品を敬遠し、綿混紡、合繊混紡への展開にシフトする動きが見られる。

中国リネン事情

2023 年フラックス原料輸入数量及び輸入単価

数量：1 重 13.1 万トン、2022 年に対し横ばい。

2 重 9.2 万トン、2022 年に対し 22.17% 伸びている。

単価：1 重 2023 年始から年末平均 40% アップ。(月平均単価：6.51€ ⇒ 8.81€/kg)

2 重 2023 年始から年末平均 30% アップ。(月平均単価：1.85€ ⇒ 2.61€/kg)

中国リネン糸輸出額

2023 年 1.5 万トン昨年より 40% 減。

輸出平均単価年始 12.19US\$/kg → 年末 16.16US\$/kg (約 30% 価格アップ)

中国亜麻織物輸出

2023 年 1.5 億メートル昨年の約半分以下に減少。

(資料提供：CBLFTA< 中国麻紡績繊維行业协会 >)

2023 年の中国麻紡績設備の稼働率は低下し、約 50 万錠稼働と推定される。

原料不足により価格が高騰し、紡績工場の経営を圧迫している。

リネン主要国生産量（ロングファイバー + ショートファイバー）

単位：千 t

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
EU	228	268	205	240	259	240
エジプト	25	59	55	38	37	N/A
ベラルーシ	40	50	34	36	48	N/A
ロシア	21	27	46	45	31	N/A
中国	12	9	16	16	16	N/A
ウクライナ	4	0.5	2	3.5	N/A	N/A
合計	330	413.5	358	378.5	391	N/A

(資料提供：AEFLH < 旧 CELC 欧州麻連盟 >)

業界レポート

2023 年～2024 年ラミー（苧麻）事情

2023 年度ラミー原料に関する状況は以下の通りである。

1. 2023 年度ラミーの栽培状況について

前年に引き続き、2023 年の栽培状況について現地に調査、報告を依頼したものの、公式な記録がなく、正確な数字を把握する事は出来なかった。以下栽培面積、生産量、原草価格等は、複数社の情報を収集し、長年中国の原料を取扱っている原料商と駐在員にまとめてもらったものである。

2. ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

現在も昨年と同様 8 万畝～10 万畝 (6,600Ha) の間と推測される。

その主要産地も四川省・湖南省・湖北省・重慶市・江西省と従来と変わらず、伝統的なラミー栽培地域に分布している。

2023 年度の原草の収穫量は約 15,000 トンと推測される。

年間を通じて天候は良好で、原草の収穫量も予想通りで推移、麻農家と生産企業も安定した状態を保ち、備蓄調整の為に在庫量も維持しており、ラミー業界の生産規模と原草の量は一致しており、短期的には変動はない。

3. ラミー価格について

原草価格については、2016 年より急騰し、2020 年に高止まり状態となって以降、2023 年も同水準の状態が続いている。

手剥ぎの麻は 24,000 元/トン、機械剥ぎの麻は 18,000 ～ 20,000 元/トン。

刈取後の剥ぎ作業の機械化が進み、手剥ぎに比べ安く販売する事が可能になり、市中価格の安定に貢献し始めている。

4. 2024 年の見通しについて

ラミー原料の取扱いに関しては、リネン原料が高騰している中で需要が増加しているにもかかわらず、麻農家の高齢化、麻を加工する工場の減少、後継者不足で作付面積の大規模な増加は見込めない。地方政府や主要生産企業がバックアップし、機械化の更なる加速が急務となっている。また、原草の価格が下がりにくく、もし下がるような状況になれば、麻農家の植付け意欲を削ぎ、ラミーを新たな苦境に陥らせることになりかねない。

麻業界の関連会社（麻農家、工場など含む）が一体となり、市場拡大へと供給責任を果たしていく事が大切である。

亜麻・苧麻統計表

(単位：千円)

品目 平成／令和年 (1～12月)	輸入糸					
	亜麻糸		苧麻糸		計	
	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額
平成 23 年	1,315	1,243,565	338	269,174	1,653	1,512,739
平成 24 年	1,172	1,099,260	262	232,549	1,434	1,331,809
平成 25 年	1,574	1,730,654	294	327,287	1,868	2,057,941
平成 26 年	1,452	1,826,471	315	380,177	1,767	2,206,648
平成 27 年	1,512	2,149,292	307	448,620	1,819	2,597,912
平成 28 年	1,178	1,410,512	215	278,070	1,393	1,688,582
平成 29 年	1,294	1,490,800	220	299,854	1,514	1,790,654
平成 30 年	1,382	1,737,013	225	360,732	1,607	2,097,745
令和元年	1,315	1,751,145	163	272,176	1,478	2,023,321
令和 2 年	652	809,137	78	151,478	730	960,615
令和 3 年	819	1,091,591	74	152,199	893	1,243,790
令和 4 年	903	1,649,397	108	298,616	1,011	1,948,013
令和 5 年	850	2,059,580	89	261,378	939	2,320,958

(注) 財務省日本貿易統計による。

(単位：千円)

品目 平成／令和年 (1～12月)	輸入織物						輸入ハンカチ	
	亜麻織物		苧麻織物		計		亜麻・苧麻ハンカチ	
	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千枚)	金額
平成 23 年	6,954	2,351,660	928	247,210	7,882	2,598,870	114	25,943
平成 24 年	6,702	2,330,368	646	204,931	7,348	2,535,299	124	36,842
平成 25 年	7,134	2,878,201	717	239,543	7,851	3,117,744	81	40,658
平成 26 年	7,365	3,236,254	687	274,121	8,052	3,510,375	85	44,298
平成 27 年	6,822	3,258,646	796	289,496	7,618	3,548,142	87	38,013
平成 28 年	7,642	3,037,204	640	219,255	8,282	3,256,459	83	32,654
平成 29 年	7,624	3,019,338	605	212,452	8,229	3,231,790	86	36,624
平成 30 年	7,609	3,289,511	674	269,854	8,283	3,559,365	61	29,381
令和元年	7,683	3,248,368	426	184,789	8,109	3,433,157	57	26,299
令和 2 年	6,347	2,345,238	383	175,882	6,730	2,521,120	76	23,444
令和 3 年	5,944	2,238,410	286	134,794	6,230	2,373,204	56	19,704
令和 4 年	5,039	2,655,833	178	108,398	5,217	2,764,231	98	26,249
令和 5 年	4,309	2,562,787	223	148,930	4,532	2,711,717	45	25,436

(注) 財務省日本貿易統計による。

会員企業紹介 (五十音順)

有限会社小啓修整織物

代表取締役社長 小酒井 大介

当社は、毛織物の産地、尾州の一宮市にて 1991 年に設立しました。

先々代の創業当初は、毛織物の補修を主業務として生計を立てていましたが、やがて毛織物の隆盛に陰りが見え始め、他素材の補修をいち早く手掛けるようになりました。

そんな最中にお得意先様より、麻素材の補修のご依頼を戴きました。当初は麻の生地 of 加工工程での変化に戸惑いながら作業をしていましたが、多くの生産者の方のご支援ご指導をいただき現在に至っております。

麻は原料の状況により様々な問題が発生しますが、補修で手を掛けすぎると逆に麻の持つ特性を損なってしまう可能性もある為、お客様との連絡を密にとり見解の一致を目指す事を大切にしています。

お客様の作った素晴らしい糸、生地、染色加工上りから最終製品に至るまで、より良い状態の商品を消費者の方にお届けする一役を担えるよう日々、努力してまいります。

<会社概要>

設立 1991 年 3 月

事業内容 各種繊維製品・反物の検品、検反、補修、加工

所在地 愛知県一宮市瀬部字砂留 49 番地の 2

連絡先 TEL 0586 - 78 - 0406 FAX 0586 - 78 - 5110

Mail kokeisyuusei@wish.ocn.ne.jp



会員企業紹介 (五十音順)

リネンハウス株式会社

代表取締役社長 大西 陽子

1. トピック

今年5月でショップは18年、リネンハウス株式会社は17年を迎えます。開業当初よりリネン製品の製造を行い、ネットショップを中心に事業を進めてまいりました。

幸運にも、創業当初から麻、特にリネンを愛する方々、そして事業所様にお力添えを頂き、今日があります。まずお世話になった皆様に感謝の気持ちをお伝えいたします。

2. 代表挨拶

寝具メーカーとして様々な素材から寝具を作っていた私は、ある日麻の寝具で眠った時の「カラッとした爽やかな温もり」に麻の可能性を感じました。その麻の可能性を信じてネットショップ「リネンハウス」を立ち上げ、今日に至ります。

3. 企業理念

開業当初より心に抱いてきた想いは、
「お客様にリネンの心地よさをお届けし、幸せな暮らしの提案をする」
「お客様にご満足をお届けする」
「スタッフ一同真心込めて対応する」そして
「スタッフの幸せを応援する会社であり続けること」

4. 会社概要

当社は、開業当初より奈良県桜井市にあります。2006年にネットショップ「リネンハウス」が誕生し、2007年リネンハウス株式会社を設立しました。開業当初は麻製品の事業の他に、奈良特産の蚊帳とフラワーアレンジメントのネットショップの3店舗で営業を開始しました。現在は「リネンハウス」「太和蚊帳」の2店舗で営業を続けております。

5. 事業・サービス概要

かねてより商品を手に取ってご覧になりたいというお客様のご要望もあり、2021年ショップ併設の社屋が完成し、路面店として新たな一歩となりました。最近では、観光を兼ねて遠方からもご来店頂く機会も増えてまいりました。今後さらにリネンハウスの物作りの魅力を多くのお客様にお伝えしてまいります。

6. 麻への関わり、こだわり

麻の中でも主に「リネン」を扱う当社は、リネンの心地よさを体感して頂ける製品作りをモットーにホームリネンを展開しています。生地作りから製品作りまで安心・安全な「made in Japan」の物作りに拘り、日本での物作りに挑戦しています。

7. 取扱商品

開業当初よりキッチンクロスやシーツ、カバーなどのホームリネンを中心に商品を取り扱ってまいりましたが、店舗にご来店頂くお客様のご要望もあり、現在はバッグやウエアなどのファッションにも商品展開を増やしています。リネンハウスは、これからも各事業所様と連携し、リネンの可能性を広げ、日本の物作りに貢献してまいります。



会員企業紹介（五十音順）

株式会社トーホーユニ

代表取締役 長谷川 泰一

当社は、1989年（平成元年）ユニフォームを含む繊維製品向け機能商品を企画提案し、更に製造販売までを一貫して行うことにより、お客様の要望に添った商品を素早く簡素にお届け出来る会社を目指し設立しました。

事業内容としては、官公庁及び公共交通機関向け各種ユニフォーム、繊維製品、防護製品、携帯品及び装備品の企画、製造、販売が主力となっております。

これからの展望と致しましては、新しい機能素材や商品及びデザイン等を常にアップデートし続け、お客様が望むよりも一歩進んだ商品を提案して行きたいと考えています。

そして麻は天然素材でありながら優れた機能素材でありますので、お客様に引き続き提案し続けたい所存です。

【会社概要】

商 号： 株式会社トーホーユニ
設 立： 1989年（平成元年）4月
資本金： 3,000万円
代表者： 代表取締役 長谷川 泰一
所在地： 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目23番地13
連絡先： TEL03-6285-2455・FAX03-6285-2513

【事業内容】

各種ユニフォーム、繊維製品、防護製品、携帯品及び装備品の企画、製造、販売



近況報告

今村株式会社

代表取締役 今村 政則

商号 今村株式会社
 所在 大阪府箕面市船場東3丁目1番6号
 電話 0727 (28) 3201 代表
 0727 (28) 5710 FAX
 代表者 代表取締役今村政則 1937 年 7 月 29 日生



逸品倶楽部では1981年の創業以来、国産素材にこだわった商品づくりをおこなってきました。これは、毎日身につけていただくお客様に、いつまでも変わらぬ安心をお届けするためです。

日本各地には優れた繊維産地があり、それぞれ伝統と技術を継承しています。逸品倶楽部では各素材の産地と提携することで、質にバラツキのない国産素材を確保し、常に高品質な商品をお届けしています。

1996年より日本経済新聞の『日経社通販歳時記』で通信販売を行っております。「シニアの男性専科ファッション通販」として発売当初よりご好評をいただいております。また、2019年より一般紙での紙上通販を始めました。

四季折々の商品を長くご愛用いただけるよう、品質本位の商品を今後もご紹介してまいりますので、『日経社通販歳時記』共々お引き立てのほど、よろしくお願いします。

2023年7月号 2023.03.28
 品質をして語らねむ

日本の夏

逸品倶楽部

代表取締役 今村 政則

天然素材の中で最も通気性が良いといわれる麻は、日本の高温多湿な夏には欠かせない素材として、古来から重宝されてきました。
 洗えば洗うほど味が出て、シミにもなりにくい特性があります。丈夫で水分の吸収や発散に優れ熱を発散するので、蒸し暑い夏を涼しく爽やかに過ごしていただけます。
 今村「逸品倶楽部」の麻シリーズは、麻ならではの特性を随所に取り入れた逸品です。

近況報告

有限会社シービープランニング

取締役 大塚 あや子

・プロフィール

大塚あや子

刺繍作家 1950 年、福岡生まれ。

日本刺繍、欧米刺繍の刺繍家である母のもとで幼少の頃より刺繍に親しむ。

2005 年 4 月に直接指導による刺繍教室「Embroidery Studio Ecu」を開講。刺繍の普及、更新の育成に努めるかたわら、広告制作やテレビ出演、雑誌、著者・監修者としての書籍出版、海外での翻訳本出版など、幅広い分野で活躍している。



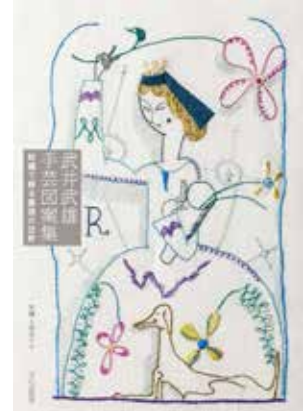
・近況レポート

直接指導の「Embroidery Studio Ecu」は、来年で開講 20 年を迎えます。

20 年の間に、延べ五千人以上に指導をしてみいました。コロナによるパンデミック前は、全国各地の教室へ足を運び、指導をしてみいましたが、現在では、東京、自由が丘のみで指導にあたっております。対面指導のみならず、オンラインでの指導も取り入れることで、様々なニーズにも応えられるよう努めております。

直近では、長年の課題であり、思い入れのあった刺繍用の麻糸を開発致しました。昨今では、刺繍の糸はコットンが主流で、麻の糸はコスト面、技術面がネックで実現は難しいものと考えておりましたが、日本麻紡績協会の会員である、エップヤーン有限会社様にご協力を賜り、素晴らしい製品を作ることが出来ました。糸の艶やかさ、強度、経年劣化を防ぐ等々、特筆すべき特徴を持ったこちらを使用して、新しく創作にも取り組んで参る所存です。

また、メディア出演も継続的に取り組んでいる事業の一つです。本年の 6 月 13 日に NHK E テレにて「すてきにハンドメイド」に出演予定がございます。リネンの紹介ができる場面を増やし、今後も活動をして参ります。



スタンプワーク



レイズドワークと呼ばれる、のちにスタンプワークと呼ばれるようになります。エンボスワークやカットキヤンバスワーク等、様々な方があることとあります。少し盛り上がったこの技法は17世紀にイギリスを中心に発展した立体的な刺繍です。今までの平面的な刺繍から立体を持たせる表現をよびます。試みは15世紀くらいからすでにあったといわれています。華やかな刺繍のフルーイズ刺繍やレリーフ刺繍と呼ばれる技法です。レリーフ刺繍は立体的な表現になるように地布に深く根の糸で下刺しし、その上を金糸や銀糸をのせて押さえて、盛り上げたものです。

当時の人々がレリーフに興味を持ち始めたのは、16世紀になるとベネチアのレースは技術的に大いに発展を遂げるようになります。詰め物にリボンの糸くずや木綿りを入れたり、漆で固めたり、使用されるスチッチの種類が増えたり、中でもニードルレースが入ることで作品が華やかになりました。特に当時の貴重品だった絹、キヤスケット（宝石やアクセサリー等を入れる小箱）、本の装丁などに多く使われていました。

その後、長い間顧みられなくなりましたが、日本でも数十年前からやっと脚光を浴びるようになりました。昔のザザの宗教的なものから現在では、自由な発想でたくさんの人々に受け入れられています。

P7とP45は基本的な立体技法を使って、芸術的に表現してみました。



リボン刺繍



幅の狭い細のリボンで糸の代わりに刺した刺繍で、ギザギザを寄せたり、とめつけたりとすることが、あまり目の詰まった刺繍は通さないようです。

リボン刺繍としてのリボンはイタリアのボローニャという都市で作り始められたといわれています。

16世紀になり、フランスのリヨンの西にあるサデヤンヌという場所へ移り、本格的に生産され始めます。フランスではすでに15世紀から婦人服に使用され始めています。16世紀になると男性の衣服もリボン刺繍飾られるようになってきます。

のちのロココの時代にはさらにリボンが使われるようになります。ロココの特徴である、女性に女性らしく優雅で華麗な装束を添えるべきファッションに、このリボン刺繍はうってつけでした。

リボン刺繍の技法は糸がリボンになっただけで、スチッチ自体は自由刺しのスチッチとは同じです。ただ中にはリボンステッチと呼ばれるリボン刺繍独特のスチッチがあります。

刺繍糸のみならず平面的なものまで通ってリボンを使うことで、ボリユーがで、豪華な仕上がりになります。早く簡単に仕上がることで、リボン刺繍は広く受け入れられています。

この簡単な技法で飾りめるようにデザインしてみました。



近況報告

ミマス株式会社

代表取締役社長 広瀬 良介

弊社における活動報告といたしましては、12/20（水）に行われました麻（ヘンプ）の活用に関する勉強会、及び2/15～16に行われました第21回ジャパンヤーンフェア（一宮）の2つがあり、そのご報告をさせていただきます。

まず、昨年12/20（水）に、参議院会館で、第6回麻（ヘンプ）の活用に関する勉強会が開催されました。これは、12/6に国会にて大麻取締法が改定され、今後様々な分野で大麻（ヘンプ）が活用されることが予想されるのに伴い、各団体が適正な使用、知識の為に現職国会議員の先生方を含め皆で共有する勉強会でした。

皆様お忙しい中、70人以上の関係者の方々がお集まりになり様々な意見の交流が行われました。

次に、本年2/15～16にかけて、第21回ジャパンヤーンフェア（一宮）が開催されました。国内の繊維産業に係る、41社2団体2大学が参加し、来場者数も約3,400名に達しました。弊社ブースにおきましても、近年の共通認識である、サステナブル、エコ、脱炭素、天然素材であるヘンプ混の商品に来場していただいた皆様に非常に興味を持っていただきました。

特に、海水で素早く生分解するレーヨンとヘンプを混紡したe:hempや、エコポリエステルと混紡した、エコグリーンなどが非常に好評でした。

【麻への関わり】

天然の涼感を味わえる麻の素材は、蒸し暑い日本の夏にぴったりの素材です。弊社では、織るのが難しい天然麻100%のパイル織物や多重ガーゼ織物などを活用した寝具など、高級感ある商品づくりを手掛けています。使うほどになじんでいく麻の商品を、国内外問わず広めていきたいと考えております。



近況報告

有限会社リネット

取締役 前田まゆみ

iPhone の着信音から

手元で iPhone のメッセージの着信音。職場にいる夫から、web リンクが送られてきました。

開くとクーリエという雑誌の記事で、最近「西洋の敗北」という本を出したばかりのフランスの歴史家・人類学者のエマニュエル・トッド氏のインタビューです。

記事を読むと、「西洋の敗北」はまだ邦訳は出版されていないようですが、近年のウクライナなどの紛争にはじまる混乱が西洋世界の没落を意味するという内容のようです。

トッド氏の言うその1つめの原因は、アメリカの産業力が衰退しているということ。要は、実際のものを生産する力が弱っているというようなことでしょうか。

2つめは、アメリカで敬虔かつ勤勉なプロテスタント文化が失われてしまったということ。その点で、今回の「西洋の敗北」は、この本は19世紀末にドイツの社会学者マックス・ヴェーバーが書いた「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」（略してプロ倫）という本の続編だと言われているそうです。

「プロ倫」では、資本主義経済が形成されていくときの例として、リネン産業が描かれているということ、著者ヴェーバーの家はもともとリネン産業に携わっていたらしいという話を知ったので、前回、こちらの麻紡のリーフレットへの寄稿文の中でも話題にさせていただきました。「プロ倫」は、もう20年以上前に他界した亡父の愛読書でもあり、今もわが家では晩酌の話題に懐かしむことも多いので、夫はわたしが興味をもつと思ってこの記事を送ってくれたようです。

プロ倫の結びの「このまま資本主義が進めば、精神のない専門人と魂のない享楽人で、未来の社会は満たされるだろう」という意味の100年以上前のウェーバーの予言のその後と呼べる洞察が、トッド氏の今回の本の内容なのかもしれません。

ウクライナ問題もイスラエルとガザの問題も、わたしたち一般庶民には与えられる情報が少ないか、もしくは偏りすぎていて、何がほんとうに起こっているのか正しい判断はできないような気がします。

数年前にウクライナとロシアの衝突が起きた直後、わたしが思い出したのは、ロシアからリネンの生地や製品、そしてレースを輸入した時のことでした。イギリス英語を流暢に話す担当者はとても有能かつ知的能力が高く、ややこしいこちらの注文を受けて何度もサンプルを作って、きちんと送ってくれたこと。そこには、教育レベルの高い人材と、自国内でふんだんに自由に動かせる原料の存在、さらに、規模が大きく処理能力の高い工場が稼働している気配が伺えました。同時に手編みのレースのサンプルも送ってくれて、それは、昔ながらの手編みで地元のおばあちゃんたちが編んでいるとのこと。

ただし、価格は期待したほど安くはなく、しかも荷物をロシアから直接日本には運べず、フランクフルトを経由しなければならなかったのが、輸送費もかなりかさみました。届いたリネンは、スラブの多いやや太番手の糸で織ってもらった素朴なものでしたが、数百メートルにほとんど不良箇所もなく、縫製もきれいな仕上がりでした。

そして、わたしはその時、ロシアをリトアニアと同じ「特惠国」、つまり関税が免除される途上国と勘違いしていて、輸送会社の担当の人に苦笑しながら教えていただきました。

「前田さん、ロシアは途上国じゃないですよ、宇宙ステーションを持っている国なんです」

そうか・・・しかもロシアにはガソリンも天然ガスもいっぱいあるんだっけ。と思うと同時に、まだロシアがソ連だったころ、アエロフロートの飛行機に乗ってヨーロッパへ行く途中、トランジットで泊まったモスクワの空港で食べたイクラとキャビアのカナッペが、考えられないほど美味しかったのも思い出しました。当時のモスクワでは、ホテルで出たお料理は素朴すぎてそれほど美味しい感じはなかったのですが、食材の味を生かしたシンプルなのは、極上と呼べるほど美味しく、しかも値段も安かったのです。それは、都市文化は荒削りでも、良質の食材がたっぷりある豊かさ、国力だと感じた記憶でした。

ウクライナとの紛争が起きたとき、ほとんどの日本の人がもっていたロシアの印象は、輸送会社の人に苦笑されたときのわたしと同じだったかもしれません。テレビで解説者が「ロシアのGDPは日本の30分の1しかないんですから」と言っていたのも覚えています。ただ、それを聞いたときわたしは、過去のそういった記憶から、だからといってロシアを侮る気持ちにはまっただけではありませんでした。

わたしはマクロ経済学のことはさっぱりわからず、GDPがその国の力を表すのにどれほどの意味をもつのかもよくわかっていません。ただ、GDPという数字はさておき、デジタルではない実際のものを生産する力、また豊富な食料や資源があるということは、どれだけの潜在的な力になることでしょう。さらに、宇宙ステーションを運営管理していることから言っても、IT力もじゅうぶんにあるはずです。

トッドの「西洋の没落」に書いてあると言われるとおり、たしかに、今やアメリカの産業力と言っても、アメリカで何を作っているのだろうか？と思ってしまうほどです。シリコンバレーのようなITソフト産業は盛んかもしれません。でも、モノについては、そのソフトをのせるデバイスはほとんど中国で作っているというし、飛行機や武器だけは作っているとして、実際にはほとんどのパーツは中国で作っていたりして？それとも、こっそりロシアに頼んでるとか？まさか…

よくわかりませんが、リネンというほとんど手作業に近いような工程を経て天然資源から作られる布を扱う場の近くにいたり、たしかにアメリカ、そして西欧の国々、いわゆる日本を含むG7の国々が、かつて持っていた自国内でのもの作りの大きな部分を手放してしまっているのは実感できます。

「没落する西洋」には、たぶん政治的に日本も含まれているのかもしれません。

そんな時代に、わたしのような何の力も持たない一庶民は、何をどうすればよいのかまったく闇の中です。夫ともiPhoneのメッセージでやりとりする生活、仕事も暮らしも、デジタルのデバイスがないと何ひとつできなくなりました。

ただ、個人的に一つだけ思うのは、自分のできる範囲で、手を使ってなにか作ることは続けたいということです。

国内で織っていただいたリネンで洋服や小物を縫う、そういった活動をしている方々に布を届ける、コンピューターではなく紙と絵の具と色鉛筆を使って手で絵を描く、野菜やお米を買ってぬか漬けを漬けたり、ちりめん山椒や昆布を炊く。

その程度のことがなにかの救いになるとは到底思えませんが、自分たちにとっては、それはやはりどこまでも大切なものだと思います。

前田まゆみ（まえだ まゆみ）経歴

絵本作家、翻訳者。京都市在住。神戸女学院大学で英文学を学びながら、洋画家の杉浦祐二氏に師事。2002年文化出版局から刊行した「リネンが好き」をきっかけに、リネンの世界と強くつながり、京都でリネン専門店 LINNET の運営にも携わる。

著書に『オーリキュラと庭のはなし』（アリス館）『くまのこポーロ』（主婦の友社）『幸せの鍵が見つかる世界の美しいことば』（創元社）『野の花えほん』（あすなろ書房）など、翻訳書に『翻訳できない世界のことば』（創元社）『もしかしたら』『だいすきだよおつきさまにとどくほど』（パイ・インターナショナル）『えほん般若心経』（春秋社）などがある。『あおいアヒル』（主婦の友社）で、第67回産経児童出版文化賞・翻訳作品賞を受賞。

2023年 NHK ラジオの「宗教の時間」出演 過去 NHK すてきにハンドメイド出演

カレンダー

1997年～1999年 旧東海銀行 カレンダー （1997年 通商産業大臣賞受賞）

2000年 関西電力カレンダー 2007年 パナソニック電工カレンダー

2024まで 帝国繊維カレンダー



新作りネン 100%プリント生地です。

『くまのこポーロ』前田まゆみ著 主婦の友社刊の原画よりデザインし、京都で織からプリントまで制作しました。

海外情報

中国国際リネンフォーラム（2023 年 10/17 ～ 10/19）開催

帝国繊維株式会社 吉永 中楽
日本麻紡績協会 香山 学

【場所】中国寧夏自治区、銀川市にて開催、【主催】中国麻紡績行業協会、

【主要参加者】中国麻紡績行業協会、欧州 AEFLH（旧 CELC）、欧州リネン連盟、日本麻紡績協会（トスコ、帝国繊維、アンツジャパン、オオハシセンイ）合計 300 名出席。

【会議内容】

- * AEFLH：リネン原料価格の高騰状況説明（主な原因は天候不順による生産高激減）。
- * 中国リネン紡績現況説明（原料高、不足、調達困難、資金圧迫、稼働率低下など）。
- * 日本市場情況、麻素材の動向（日本麻紡績協会根本圭司会長発表）。
- * イーシン・サンシャイン銀川リネン潤紡績工場見学、現在稼働中が 3 万鍾（細番手 100L 迄紡績）、新たに 3 万鍾増設中。同社は現在中国 NO.2（11 万鍾）規模。

【欧州麻連盟 AEFLH（旧 CELC）バート・デブルク会長プレゼンテーション】

- * AEFLH ⇒ Alliance for European Flax-Linen & Hemp

1) 欧州麻連盟（AEFLH）4 つのガイドラインと価値

- * BeUnited（団結する）、* tradition・innovation（伝統と革新）、
- * Remain:proof-obsessed（照明への拘り）、* Being respectful（敬意払う）

2) 3 つの戦略基軸

- * 亜麻リネンのエコシステムとバリューチェーンの拡大
- * 革新的であること（持続可能なリファレンス）
- * 品質保証（強い要望の創造）

3) 2023 年度フラックスの収穫高についてのコメント

- * ロングファイバーの生産量は、今後数か月間西欧州での前回キャンペーンより 30 ～ 40% 減少すると推定される。
- * 2024 年度のフラックス作付け面積はわずかに増加し（前年比 5 ～ 10% 増）再び 16 万ヘクタールに達する。
- * 気候変動に左右されなくなるよう、冬季亜麻の作付け面積は倍増し 2024 年には約 2 万ヘクタール、すなわち全作付け面積の約 12% を占めるようになるだろう。

4) 亜麻の品種改良への R & D（研究開発）（アルヴァリス）

R & D Breed Flax Meta Project（Arvalis）

①ゲノミクス（Genomics&genetics）と遺伝学ゲノフラック Genoflax（進行中）

亜麻 4 品種のゲノムを解読して、1) 選考を改善する。2) ヨーロッパ亜麻の“繊維特性を良くする”

②生態生理学（Ecophysiology）：エコフラックスのモデリング（期待）

成長と収量形成の生態生理学的決定要因の研究栽培モデルの開発。

気候変動が亜麻栽培に及ぼす影響に関する前向き研究を実施し、それに適応するための手段を決定する。

③フェノフラックス（Phenoflux）のフィールド（畑）での挙動（進行中）

与えられた環境での植物を観察するために、センサーや人工知能を用いた測定方法を開発する。

上記3つのプロジェクトは互いに影響しあい、亜麻植物とその環境（気候）との関係を理解するのに大変有用である。

5) 量と質の生産に適応するための研究開発。

研究機関やブリーダー（育種家）とのコラボレーションは、結果として以下になるはずである：

- * ストレス（水と温度）に強い新品種。* より適した新しい生産戦略を導入する。
- * 冬季亜麻新品種の統合。* フランス国内と海外（英国、スコットランド等）の成長著しい地域に向けて拡大中。

6) 結論①

- * 亜麻作付面積は、過去 15 年間で 2 倍以上に増加。
 - ・ 亜麻栽培に対する農家の自信：亜麻は栽培リスクは高いが収入も大きい。
 - ・ 亜麻圃場の機械化への継続的投資。
- * 欧州スカッチング（製線）能力の革新と拡大
 - ・ 生産量の増加と労働条件の改善
 - ・ 2014 年の 117 ラインから 134 ラインへ
- * 4 つのブリーダー（育種家）がいくつかの新品種を開発
- * 農学研究センターによる継続的な農学研究開発：Arvalis-Inagro Breedflax
 - ・ 環境（異常気象等）の変化への適応に向けて。

7) 結論②

- * 中国で拡大する亜麻紡績業への投資
 - ・ インドにおいても 2022 年度錘数（spindle）が 11 万錘の増設
 - ・ フランスのアンデヴァン（Andeven）においても、現在 2 つの工場が稼働中。
- * フラックスやヘンプの持続可能性が証明され、リネンとヘンプのマーケットの市場での認識向上。
- * 欧州麻連盟の協同戦略と協同アクション・プランによる成功

（文責：吉永・香山）



日本麻紡績協会根本会長プレゼンテーション

PREMIERE VISION 2025SS (2/6-2/8)

トスコ株式会社 小林 奏生

《トレンド》

2025SSのテーマは「突然変異」。光による動きのある変化や生物的なランダムな曲線、時間経過と共に変化する様子など変容していくようなテクスチャーを表しています。蛹のように進化途中のような透明度の変化からインスピレーションを受けています。

カラーとしては乳白色がかったものやパステルカラー、まぶしいくらいな白がテーマでやはりここでも光が当たり変容していくような様がポイントとなっています。



《出展企業とエリア構成》

今回の25SSプルミエールビジョンでの出展企業は約1200社で8つのエリアからの構成です。LEATHR/ACCESSORIES/DESIGNS/FABRICS/MAISON D'EXCEPTIONS/YARNS/MANUFACTURING/SMART CREATION となっています。トスコはFABRICSエリアのPremium relaxゾーンに位置しています。FABRICSエリアでの日本企業出展社数は37社。来場者は小規模～中規模アパレルが主体で、国別ではフランス・イギリスのアパレルが多く、アメリカやスイス、中国からの来訪もありました。

《ブース構成》

トスコブースでは紡績メーカーであることを打ち出すことを狙いとし、Raw Materialつまり植物の写真や紡績原料を展示。天然素材をメインに扱うブースという分かりやすいアイキャッチに繋がったと思います。コレクションの中身はラミー、リネン、ヘンプ、綿麻、複合物（シルク混、和紙混、合繊混）で2セットの展示を行いました。



お客様のご要望としては小ロット対応できるかどうか、ミニマムオーダー数の確認は多かった印象です。ポイントはお客様の元へすぐお届けできる在庫リスク品を活用しながらトレンド感とうまく表現していくこと。定番品の見直しや差別化していく重要性を改めて感じさせられました。欧州では環境意識が高く、サステイナブル素材への要求も強いです。オーガニックラミーはもちろん、リサイクル素材、エコな切り口の加工を意識しながらモノづくりしていくことがより求められています。

《考察》

展示会ではブースアイキャッチの工夫をしていく必要はあります。一目で分かりやすい説明補足用 POP は必要かも知れません。また生地を实际触ってもらえるように、店頭ハンガーサイズの生地をかけておくことは効果的でありました。触ってもらうことでブース内に誘導できることもあります。とことん風合い追及したものや見た目の綺麗さがポイントのような気がします。またすべての商品で言えることですが短納期対応することが必須でお客様に沿ったリスクの取り方をフレキシブルにしていくことが重要です。



お知らせ

(1) 日本麻紡績協会 ピンバッジ について

以前より、会員の方々から要望の強かった日本麻紡績協会（ASABO）のシンボルとしての麻のピンバッジがようやく完成しました。

ヨーロッパで発祥したピンバッジはコレクターズアイテムとして人気があり、国際的には“ピンズ（PINS）”と呼ばれています。国際的なイベントでは必ず公式記念ピンバッジが製作され、世界中のコレクターに人気を呼んでいます。ピンズの目的は二つあり、Inner communication（IC）と Outer communication（OC）です。ICでは「組織の強化」「マネジメント」を主な用途として、OCでは「プロモーション」「ブランディング」「PR」を主な用途としてピンバッジが活用されています。



今回のピンバッジは私共日本麻紡績協会のシンボルとして ASA（麻）、そのもっとも可憐な姿を現すリネンの花をモチーフとして製作いたしました。いにしえ（古）から未来へ紡ぐ ASA（麻）は、SDGs を可能とする環境配慮繊維として今後ますます要求が高まる中で、この小さなピンバッジが、会員各社が切磋琢磨する中で、共創（Michael Porter）による新しいリネンビジネス市場を開拓し、麻を愛する仲間のエンブレムとして活用して下さればと存じます。（文責：専務理事 香山学）

(2) 訃報

平成 20 年（2008 年）より令和 3 年（2021 年）まで 13 年間、日本麻紡績協会の会長として当協会の発展及び麻業界の地位向上に尽力されました飯田時章様が昨年（2023 年）11 月 1 日にご逝去されました。（享年 88 歳）ここ紙面にて改めてお悔やみ申し上げます。



飯田時章様

〈思い出〉

2014 年 11 月 第 2 回欧州国際リネン会議（ハンガリー）において、ASABO（麻紡）飯田会長が欧州麻連盟デボルク会長より、新生 ASABO として会員数を 30 数社から 100 社を超えるまで拡大して、日本市場でのリネンの普及並びに欧州麻連盟への貢献により、Award の Medal が授与された。

日本麻紡績協会の現況

令和6年5月

日本麻紡績協会の年間活動報告

(1) 現況

日本麻紡績協会は2008年5月に新体制で再出発、今年16年目を迎えることが出来ました。現在会員数が106社、紡績、商社、各生産会社（撚糸、織、編、染色・加工、縫製）や企画、小売に至る麻に関する全ての業種に会員が拡大、消費者への麻の浸透に努めております。

(2) 麻を取り巻く環境

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5種感染症へ移行、日常生活も以前に戻りつつあります。

国内アパレルや百貨店等を中心に市場環境は回復基調へと進んでいますが、原材料価格高騰、円安基調の中、コストが上昇し、国内生産現場では人員不足、後継者問題、廃業など非常に厳しい環境が続いています。このような状況下ではありますが、麻素材は高温多湿な我が国の夏物素材として定着、「SDGs 素材」としても近年注目されて、市場に浸透、さらなる飛躍が期待されています。

日本における麻素材を中心とした唯一の団体 ASABO（日本麻紡績協会）の役割・存在感が益々高くなってきており、協会会員間のビジネスも取引から取り組みへと進化しつつあります。

(3) 活動報告

- ① 国内、海外とも展示会がデジタル展からリアル展への移行、2025年春夏シーズンに向けたイタリア・ミラノでの開催「ミラノ・ユニカ展」、フランス・パリでの開催「ブルミエール・ヴィジョン」へ日本麻紡績協会加盟各社が出展。
- ② 2023年10月に「国際リネンフォーラム」が中国寧夏自治区銀川市にて中国麻紡績行業協会主催で開催され、日本麻紡績協会から根本会長、香山専務理事、他4名が出席し、会議では根本会長が「日本市場の繊維品及び麻素材の動向」を報告するなど欧州麻連盟（CELC）、中国麻紡績行業協会との連携を深めつつ、国際間交流も着実に進めてきております。
- ③ 国内では北陸ヤーンフェア2023や第21回 JAPAN YARN FAIR & 「THE 尾州」などの展示会に会員各社が出展、麻素材についての販促紹介を実施
- ④ 日本麻紡績協会（ASABO）のシンボルとしての麻のピンバッジが完成し、1月の年賀交歓会で各社に配布、会員各社の共創による新しいリネンビジネス市場開拓への活用を期待。

(4) 令和6年度 国内定例行事等

- ・ 令和6年1月11日 年賀交歓会 開催（来場者 62社122名 来賓7名）
- ・ 令和6年5月15日 理事会・総会（総会後懇親会）予定
- ・ 令和7年1月16日 年賀交歓会 予定

日本麻紡績協会 105 社、1 協同組合（五十音順）

- ア 青葉株式会社
 株式会社 AKAI
 株式会社アクシス
 浅記株式会社
 朝日加工株式会社
 旭紡績株式会社
 アトモスフェール・ジャボン株式会社
 株式会社アマックスコーポレーション
 株式会社 ANTS JAPAN
 アンダー株式会社
 今村株式会社
 岩田工房
 栄光染色株式会社
 越前屋多崎株式会社
 エップヤーン有限公司
 株式会社エヌ・ビー・アール
 近江織物株式会社
 株式会社大志茂
 オーハシセンイ株式会社
 大森撫糸株式会社
 小千谷織物同業協同組合
- カ 有限会社金丸整理工業
 甲株式会社
 有限会社川登
 株式会社カンセン
 株式会社関東小池
 菊高産業株式会社
 岐セン株式会社
 株式会社北国生活社
 株式会社キョウワソーイング
 株式会社金原
 グロリア株式会社
 桑村繊維株式会社
 K B ツヅキ株式会社
 株式会社ケンランド
 興和株式会社
 有限会社小啓修整織物
- サ サイポー株式会社
- 澤染工有限公司
 株式会社三幸
 株式会社三幸ソーイング
 株式会社三和リネン
 有限会社シービープランニング
 滋賀麻工業株式会社
 信友株式会社
 島村メリヤス株式会社
 株式会社ジャスカ
 株式会社成願
 聖天株式会社
 新成物産株式会社
 新陽株式会社
 鈴木晒整理株式会社
 装研株式会社
- タ 株式会社ダイイチ
 大恒株式会社
 株式会社大長
 株式会社タグチ
 株式会社武田商店
 株式会社タケミクロス
 辰野株式会社
 田村駒株式会社
 帝国繊維株式会社
 有限会社テキスタイルベガ
 株式会社テザック
 東興産業株式会社
 東洋繊維株式会社
 東洋物産株式会社
 東和株式会社
 株式会社トーホーユニ
 トスコ株式会社
 殿岡服飾工業株式会社
 豊川テキスタイル株式会社
 豊田株式会社
- ナ 中伝毛織株式会社
 中村株式会社
 有限会社ナカモリ
- ニイガタテキスタイル株式会社
 西本株式会社
 西山繊維株式会社
 日新実業株式会社
 ニット技研
- ハ ハイランド株式会社
 服部テキスタイル株式会社
 平岡織染株式会社
 株式会社廣瀬商会
 廣瀬又一株式会社
 藤居織物工場
 ブルーミング中西株式会社
 株式会社穂高商事
- マ 株式会社麻絲商会
 丸佐株式会社
 丸進工業株式会社
 株式会社丸萬
 三重ユニフォーム株式会社
 株式会社三崎
 ミマス株式会社
 未来テクノ株式会社
 株式会社武蔵富装
 株式会社むつ縫製
 森菊株式会社
 森保染色株式会社
- ヤ 山甚物産株式会社
 ユウワ商工株式会社
 株式会社ユニウェル
- ヲ 有限会社リネット
 リネンハウス株式会社

JIIHA（日本ヘンプ協会）様より、当協会及び 欧州麻連盟へ講演依頼がありましたのでお知らせします。

第1回 東京国際ヘンプカンファレンス
ヘンプとカンナビノイドの
科学・産業の発展
The 1st Tokyo International Hemp Conference
“Advances of Hemp/Cannabinoid Sciences and Industries”
2024年
9/24(火) 9/25(水) 9/26(木)
12:30~18:10 9:00~18:10 9:00~17:50
開催場所 東京都立産業貿易センター浜松町館
〒105-7501 東京都港区海岸1-7-1 東京ポर्टシティ竹芝 2階北
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は

The 1st Tokyo International Hemp Conference
Advances of Hemp/Cannabinoid
Sciences and Industries
2024
Sep 24 (TUE) | Sep 25 (WED) | Sep 26 (THU)
12:30pm~6:10pm 9:00am~6:10pm 9:00am~5:50pm
Banquet on the last day from 6:30pm to 8:30pm
Venue Tokyo Metropolitan Industrial
Trade Center Hamamatsucho-Kan
2F North, Tokyo Port City Takeshiba, 1-7-1 Kaigan, Minato-ku, Tokyo, 105-7501

申し込み詳細 Application Details			
申し込み詳細	申込期間	申込フォーム	
申込期間	4/25~7/31	8/1~9/20	
会員種別			
有料会員	22,000円	33,000円	
登録会員・学生会員	33,000円	44,000円	

※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は

開催目的 Purpose of Event
SDGsの観点に基づいて、産業用ヘンプの利用価値が世界的に広く認識されて
ており、我が国でもヘンプ関連科学技術の発展が重要な課題となつて
いる。
そこで当協会では、ヘンプとカンナビノイドの科学と産業の発展をメイン
テーマとした大規模な国際会議を初め、日本で開催する事で、本領域に
おける国際協力の発展を目指す。
本大会では、ヘンプの産業化やカンナビノイドの医療利用に関し、最先
端の研究成果を報告する。また、欧州産業用ヘンプ協会(EUHA)、欧州キ
ラックス、リネン・ヘンプ連盟、タイ産業用ヘンプ協会(TIHA)、米国産
用ヘンプ連盟(NIH)、韓国医療用大麻臨床研究会をはじめ、世界各国の
ヘンプ事業者・研究者が参加し、各分野で講演・討論を行う。

- 主な講演者 [総講演数 36]** Main Speakers
- 村松 雅司 (東京大学名誉教授)
 - 岡本 孝 (東京大学名誉教授)
 - 木村 和 (東京大学名誉教授)
 - 高倉 和 (東京大学名誉教授)
 - 松本 大 (金沢大学名誉教授)
 - 佐藤 均 (昭和大学名誉教授)
 - 堀 隆一 (徳島大学名誉教授)
 - Patrick Collins (南カリフォルニア大学名誉教授)
 - 山崎 孝 (日本麻紡績協会名誉会長)
 - マイケル・ボブロー (日本カンナビノイド産業協会代表)
 - Patrick Atagi (President of NIH)
 - Lorenza Romanese (Managing Director of EHA)
 - Kvanchai Wisitnanon (General Delegate of Alliance for European Flax-Linen & Hemp)
 - Marie-Emmanuelle Beauger (Director of Traditional Medicine Department, Ministry of Public Health, Thailand)
 - Ponchai Padminda (President of TIHTA)
 - Lawrence JI (CEO of Essentia Scientific, USA)
 - Gomathi Chan (Golson Inc., France)

※本基に記述の情報は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

Application Details			
Application Details	Application period	Application Form	
Membership type	1st Aug- Sep 20		
Member	22,000JPY / 33,000JPY		
Non-member	33,000JPY / 44,000JPY		

※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は
※本大会では、会場内に展示ブースをご用意しております。詳細は

- Professor Emeritus, University of Tokyo**
Dr. Yusuke Nakamura Special Lecturer
- Major Career
Dr. Yusuke Nakamura, School of Medicine in 1977. He has led the field of "genomic medicine" by discovering genetic markers that are useful for treating diseases. He has served as Director and Professor at the Human Genome Analysis Center, RIKEN Center for Genomic Medicine, Director of the National Cancer Center Research Institute, Director of the Cabinet Office, Director of the Ministry of Health, Labour and Welfare, Director of the Department of Hematology and Oncology and Deputy Director of the Center for Personalized Medicine, University of Chicago Medical Center, Director of Cancer Precision Medicine Research Center, Director of Cancer Research and Other Problems, and has held his current position since 2022.
- He was awarded the Medal with Purple Ribbon in 2004 and was named a "Person of Cultural Merit" in 2005. He was also named a Distinguished Alumni of the University of Tokyo and was nominated as a Nobel Prize candidate in Physiology and Medicine.
- *Please note that the changes in the contained information may occur without notice.

Purpose of Event
The value of industrial hemp is widely recognized worldwide based on the concept of SDGs, and the development of hemp-related science and technology has become an important issue in Japan as well. In this field by holding a large-scale international conference in Japan for the first time, with the main theme of the development of science and industry in hemp and cannabinoids. This conference will introduce cutting-edge Research Outcomes on the industrial application of hemp and the medical application of cannabinoids. Participants will be able to exchange information on hemp-related associations from around the world, including European Industrial Hemp Association (EIMA), Alliance of European Flax-Linen & Hemp Federation, Thai Industrial Hemp Trade Association (TIHTA), and National Industrial Hemp Council (NIHC) of USA, and Medical Cannabis Clinical Research Association of Korea, will participate in the lectures and discussions on various topics.

- Main Speakers [Total Lectures 36]**
- Yusuke Nakamura (Professor Emeritus, University of Tokyo)
 - Futoshi Taura (Professor, Iwate Medical University)
 - Fumitaka Kimura (Professor, Jikei University of Medical Science)
 - Wataru Ochiai (Professor, Hoshi University)
 - Daisuke Matsushima (Professor, Kanazawa University)
 - Hitoshi Sato (Professor, Showa University)
 - Patrick Collins (Professor Emeritus, Arizona University)
 - Manabu Kayama (Managing Director, Japan East Fiber Association)
 - Michael Bobrowe (Representative of MAJIC, Japan)
 - Patrick Atagi (President of NIH)
 - Lorenza Romanese (Managing Director of EHA)
 - Marie-Emmanuelle Beauger (Director of Traditional Medicine Department, Ministry of Public Health, Thailand)
 - Ponchai Padminda (President of TIHTA)
 - Lawrence JI (CEO of Essentia Scientific, USA)
 - Gomathi Chan (Golson Inc., France)

※本基に記述の情報は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

JIIHA 一般社団法人日本ヘンプ協会
URL <https://japan-ih-a.or.jp/> MAIL info@japan-ih-a.or.jp/

JIIHA Japan Industrial Hemp Association
Sponsored by
URL <https://japan-ih-a.org> MAIL info@japan-ih-a.org

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL 03-3668-4641

FAX 03-3668-4642

Email jp-asabo@cb.wakwak.com

URL <https://www.asabo.jp/>

令和6年5月15日発行

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓬（よもぎ）」に由来しています。

ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。

転じて、善良な人々に交われれば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。

日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業（なりわい）としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。



リネン（亜麻） Photo by CBLFTA

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL: 03-3668-4641

FAX: 03-3668-4642

Email: jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <https://www.asabo.jp/>